



平成29年度

安曇野市市民活動事業成果報告会

日 時：平成30年3月3日（土）
午後1時30分～午後4時00分
場 所：安曇野市役所本庁舎4階大会議室



安曇野市





平成 29 年度

安曇野市市民活動事業成果報告会

■日 時：平成 30 年 3 月 3 日（土） 13：30～16：00

■場 所：安曇野市役所本庁舎 4 階 大会議室

【プログラム】

- 1 開会（13：00）
- 2 副市長あいさつ
- 3 第 1 部 つながりひろがる地域づくり事業成果発表（13：35）
 - ①「豊科小唄・安曇野ばやし踊り指導用教本制作事業」
（上押野区） 9 ページ
 - ②「『下鳥羽の古文書を読む』冊子の出版」
（下鳥羽区公民館） 7 ページ
 - ③「地域における食生活の改善事業」
（食の寺子屋 給食部） 35 ページ
 - ④「地域で共に生きようフェスティバル」
（地域で共に生きようフェスティバル実行委員会） 39 ページ





4 第2部 安曇野市市民協働事業提案制度実施事業成果発表（14：15）

- ①「ガーデンファーム（せんぜ畑）ライフを通じた地域の絆づくり事業」
（安曇野をもっと元気にする会） 43 ページ
- ②「～あなたの夢が叶う！？～『協働ワークショップ』で体感しよう」
（E・BE・YA あづみ家） 45 ページ
- ③「『あづみの国際 DAY』に向けた多文化共生事業」
（あづみの国際化ネットワーク） 47 ページ
- ④「懐かしき安曇野の水のすがた～移り変わりの記録～」
（NPO 法人 川の自然と文化研究所） 49 ページ
- ⑤「あづみのフィルムアーカイブ事業」
（あづみのフィルムアーカイブ） 51 ページ

～ 休 憩 ～

5 意見交換会（15：15）

6 閉会（16：00）



パネル展示発表

- ・アルプス区高齢化を考える会
- ・橋爪シニア倶楽部
- ・三田体験農場
- ・こどものための音楽会実行委員会
- ・セニョール&セニョリータ
- ・NPO 法人 川の自然と文化研究所



市民活動事業一覧

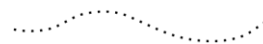
【つながりひろがる地域づくり事業実施事業】

○地域型組織

No.	事業名	実施団体名	ページ
地1	上鳥羽区自主防災訓練	上鳥羽区自主防災会	5
地2	「下鳥羽の古文書を読む」冊子の出版	下鳥羽区公民館	7
地3	豊科小唄・安曇野ばやし踊り指導用教本制作事業	上押野区	9
地4	アルプス区の高齢化対策	アルプス区高齢化を考える会	11
地5	世代を超えて伝統、伝説、文化を守ろう	古厩区	13
地6	花咲く明るい地域作り	橋爪シニア倶楽部	15
地7	三田体験農場	三田体験農場	17
地8	西原納涼祭	穂高区西原常会	19
地9	「地域密着人口と共に」（地域密着人口とは子供と高齢者の合計）	飯田区お祭りを楽しむ会	21



○目的型組織



No.	事業名	実施団体名	ページ
目1	熊倉体操教室	熊倉春日会（老人クラブ）	23
目2	高齢者外出支援	NPO 法人 からだ堂	25
目3	神竹灯コンサート IN 安曇野神竹灯 2017&竹楽特産品紹介	安曇野で暮らすように泊まる 実行委員会	27
目4	安曇野ドリンクフェスタ	安曇野ドリンクフェスタ実行 委員会	29
目5	こどものための音楽会 vol.6	こどものための音楽会実行委 員会	31
目6	節分豆まき	豊科商店連合会	33
目7	地域における食生活の改善事業	食の寺子屋 給食部	35
目8	協働事業による無農薬野菜をめざし て	セニョール&セニョリータ	37
目9	地域で共に生きようフェスティバル	地域で共に生きようフェステ ィバル実行委員会	39
目10	語り継ぐ安曇野をめぐる水と暮らし	NPO 法人 川の自然と文化 研究所	41

【安曇野市市民協働事業提案制度実施事業】



No.	事業名	実施団体名	市民団体	ページ
			安曇野市	
1	ガーデンファーム（せんげ畑）ライフ を通じた地域の絆づくり事業	安曇野をもっと元気にする会 市民生活部地域づくり課		43
2	～あなたの夢が叶う！？～ 「協働ワークショップ」で体感しよう	E・BE・YA あづみ家 市民生活部地域づくり課		45
3	「あづみの国際 DAY」に向けた多文 化共生事業	あづみの国際化ネットワーク （AIN） 総務部人権男女共同参画課		47
4	懐かしき安曇野の水のすがた ～移り変わりの記録～	NPO 法人 川の自然と文化 研究所 教育部文化課		49
5	あづみのフィルムアーカイブ事業	あづみのフィルムアーカイブ 教育部文化課		51

事業名 上鳥羽区自主防災訓練

団体名	上鳥羽区自主防災会		
代表者名	中野 善計	連絡先	73-2024
活動拠点所在地	上鳥羽地域農業推進拠点施設(公民館)	構成人数	46人
事業実施総額	132,552円	補助金額	53,000円
主な補助金使途	講師謝礼・防災訓練案内制作・炊出し材料費及び労務費		
事業実施日・期間	平成29年10月1日(準備9月20日~完了10月20日)		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>「事業内容」</p> <p>上鳥羽区に於いて自主防災訓練について一昨年迄は単に隣組長を対象にした簡単な訓練であった。昨年度より区民を対象にした自主防災訓練を考え昨年度松本広域消防本部豊科消防署の協力の下避難誘導訓練・消火訓練・AED訓練等実施した。</p> <p>本年度は災害として地区で最大関心事の地震災害について当区自主防災訓練を計画する。</p> <p>訓練内容については下記の通り</p> <p>※事前に防災訓練用パンフレット制作配布を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 区民の公民館迄の避難誘導の実施(各隣組長指揮の下実施) 2 緊急時通報訓練の実施(小学生・成人・高齢者各男女一名) 3 防災(震災)講演 「NPO法人防災サポートおじや」より講師として風間久司様をお招きして実施する。 4 防災等非常時対応として参加者に炊出しに依るおにぎり配布及び保存水(2L)の配布を行った。 <p>「成果」</p> <p>昨年度実施に於いて参加区民167名参加であったが今年度は202名の参加であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 避難誘導については隣組毎組織的行動が実施された。 2 通報訓練は小学生・成人・高齢者各男女共良い出来でした。 3 震災公演では講師に依る新潟中越地震の語り部が分かり易く当初目的とした防災訓練の効果は出来たと判断している。 4 炊出しに依るおにぎり配布(三種類)及び保存水配布は参加した区民に当区としての対応が分かって頂いたと判断している。 <p>「今後の展開」</p> <p>本年度の訓練を基に来年度は救急救命訓練を主体にした訓練の計画を行っていく予定。高齢者・身障者の参加の課題の検討</p>		

1 避難誘導訓練
全隣組35組参加



2 通報訓練
小学生 男女各1名
成人 男女各1名
高齢者 男女各1名



3 防災(震災)講演
NPO法人防災サポートおぢや 講師
風間 久司様に依る
中越地震の語り部



4 炊出し訓練に依る
おにぎり配布及び
保存水配布



事業名 「下鳥羽の古文書を読む」冊子の出版

団体名	下鳥羽区公民館 下鳥羽の古文書を読む会		
代表者名	西沢 洋明	連絡先	73-2598
活動拠点所在地	下鳥羽公民館（豊科 980-1）	構成人数	15人
事業実施総額	389,880円	補助金額	194,000円
主な補助金使途	発刊冊子料		
事業実施日・期間	平成 29.4.23～平成 29.12.06		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>1.平成 26 年度から下鳥羽公民館活動のクラブとして、下鳥羽に関係する古文書等を解読勉強してきた内容を一冊の本として 「下鳥羽の古文書を読む一日光寺・大同神社を中心に下鳥羽の歴史をひもとく」の発刊を行った。</p> <p>2.下鳥羽区民の希望者への斡旋をおこない、多くの方に古文書の勉強もできる本として提供できた。 また、安曇野市内図書館、松本城管理事務所、松本博物館、松本図書館、松本文書館、八十二文化財団、長野県歴史館、長野県立図書館からの寄贈要望により、提供できたことは、広く古文書解読について関心のある方にご協力寄与できたと考えている。</p> <p>3.今後は、この本を古文書解読教則本として広く活用していくことと、大同神社の石の狛犬については、文化財登録への足掛かりとして、また水利関連の古文書の解読では、歴史事実の掘り下げ等に寄与できていくと考える。更に古文書の解読本として、古文書を解読できる方の増加にも寄与できるので、活用し、底辺の拡大を進めていきたい。</p>		

下鳥羽の古文書を読む
会のメンバーと発刊記
念写真



「下鳥羽の古文書を読む」の内容



事業名 豊科小唄・安曇野ばやし踊り指導用教本制作事業

団体名	上押野区（豊科調安曇節愛好会）		
代表者名	大石 昭明	連絡先	62-3693
活動拠点所在地	上押野営農センター	構成人数	27人
事業実施総額	160,000円	補助金額	80,000円
主な補助金使途	撮影費用及び製作費		
事業実施日・期間	毎月第2第4日曜日練習 12月5日撮影		
事業概要・成果 ・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・豊科で毎年7月に開催されるあづみ野まつりのオープニングイベントで豊科調安曇節・豊科小唄・が披露されております。祭り全体では「あづみ野はやし踊り」が踊られております。踊りを指導する人が少なくなる中、指導用映像を残しておくことが必要と考え、あづみ野祭り踊りの講師、西川流師範西川喜枝嘉さんと協力して、豊科小唄・あづみ野はやしの踊り方のDVDを製作し保存・継承・普及活動の推進。 ・あづみ野祭り参加が世代間の交流の契機となり、老若男女問わず楽しめる共通の価値観となり、世代間のギャップを縮める機会となりました。活動により達成感・充足感の手応えを感じ地域活動の多様な担い手となりました。 ・29年度の参加により地区にあづみ野祭り実行委員会が発足できました。豊科調安曇節愛好会は毎年オープニングイベントへの参加と同時に、あづみ野ばやし踊り連を充実し、子ども会育成会等の協力を得ながら幅広い人に参加を呼びかけ、毎年参加し祭りの参加により地域づくりに反映して行きます。 		
<p>○あづみ野ばやしや豊科調安曇節、そして豊科小唄など、その素朴で情緒溢れる歌詞と踊りは。住民に愛され親しまれつつ、毎年夏に行われるあづみ野祭りの中で連綿（れんめん）と受け継がれています</p>	 <p>昭和50年代前半、地区ごとに行われていた盆踊り大会も時の経過とともに次第に低調となり、町内中心部で今まで盛況であった成相（なりあい）地区の盆踊り大会でさえも下火となっていました。</p>		

○町全体で皆が盛り上がる様な祭りを、との機運が高まり、ちょうどそんな折、新たに町長に就任した、笠原貞行氏により、「町民の連帯と心のふるさとを作る」という目的のもとあづみ野祭りが開催されるようになりました。



昭和 55 年代の開催の様子を紹介しています。

○オープニングイベントとして、安曇野太鼓の演奏、踊りの披露、安曇野市消防団音楽喇叭(ラッパ) 隊の演奏や行進、そして踊りの披露等などがにぎやかに展開されます。

○あづみ野祭りと新民謡のDVD 製作と、あづみ野祭り参加が世代間の交流と、老若男女誰でもが楽しめる価値感の共有となり新しい地域づくりに発展しました。



事業名 アルプス区の高齢化対策

団体名	アルプス区高齢化を考える会		
代表者名	百瀬 陽子	連絡先	73-2957
活動拠点所在地	アルプス地区公民館	構成人数	15人
事業実施総額	160,000円	補助金額	80,000円
主な補助金使途	協力者謝礼、イベント参加賞、事務用品		
事業実施日・期間	平成29年6月1日～平成30年1月31日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>〔事業概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けの学習会開催 ・音楽会、お楽しみ会、ゲーム大会（世代間交流事業）の開催 <p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの事業（行事）に多数の区民の参加があり、より一層の親睦がはかられました。 ・高齢者が学習会等に参加することで、自身の意識の向上にもつながっているものと感じました。 ・世代間交流に主眼を置いた事業（行事）では世代を越え多数の区民の参加があり世代間の交流がはかられたと思います。また、今年度は、「夏祭りに」高校生が参加し、手作りゲームの製作から運営まで自主的に行ってくれました。また中学生が昨年度に引き続き自主的に参加協力してくれたことが大きな成果と感じています。 <p>〔今後の展開〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業（行事）への参加者数は大変多いけれども、相変わらず顔ぶれが同じになりがちです。今後も参加のない区民に参加を促していきたいと考えています。 		
<p>7月1日 『高齢者向け学習会』 ◆とらふいっく sisters による「交通安全・特殊詐欺防止」ミュージカル</p> <p>◆市消費センター 出前講座 「私たちは狙われている」</p>		<p>道路を斜めに渡ると歩く距離が長くなってしまいます。道路は横断歩道をまっすぐ渡りましょう！！</p>	
	<p>皆、熱心に聴講していますね</p> <p>自分は絶対に引っかけられないと思ってはいけません。見覚えのない電話番号には出ない方がいいでしょう。</p>		

8月14、15日

区最大イベント

『納涼祭』

★太鼓演奏会

★手づくりゲーム

★お祭屋台

Etc



常念太鼓の演奏会



高校生の屋台



高齢の区民と中学生と一緒に担当しています



高校生手作りのゲーム

1月21日

『新年お楽しみ会』

★コースター作り

★ゲーム

★卓球

★茶話会



コースター作り



事業名 世代を超えて伝統、伝説、文化を守ろう

団体名	古厩区		
代表者名	有賀 正明	連絡先	
活動拠点所在地	古厩区域内	構成人数	355人
事業実施総額	455,379円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	食材、消耗品、綿アメ機械		
事業実施日・期間	平成29年4月24日から平成30年3月31日まで		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>数年前まで古厩区では各常会対抗の行事が数回あり力あわせて、古厩区地域の交流会を行い、大会が終わった後には各常会ごとに反省を兼ね慰労会などを行い隣近所の人たちは、とても良い付き合いが出来、仲間意識が高まっていました。</p> <p>最近では、そのような交流会行事もなくなり隣近所での付き合いは支え合い助け合うといった相互扶助の意識が変わってしまったように思います。</p> <p>そこで古厩区は市の進める「つながりひろがる地域づくり事業」に参加応募する事にしました。</p> <p>まずは子供たちが楽しめる行事にし、親も一緒に参加して貰えるようにしたらどうかという意見が出て実行してみました。</p> <p>まだ始まったばかりと準備段階なので成果はこれからだと思いますが、昨年度に比べてはるかに、子供だけでなく大人もイベントに参加する人達が増えてきています。</p> <p>今年の経過を生かし世代を超えた交流が古厩区に広がればと考えています。</p>		
<p>【古厩区の紹介と活動事業の紹介】</p> <p>古厩区は安曇野市の北西に位置し東西（追分駅の西から北アルプスの麓宮城）に長く伸びた区です。耕地の中央は林に覆われた別荘地、古厩地区と宮城地区は同じ区で有りながら昔から地理的に遠く感じ交流がなかなか出来ないのが現実です。今でも区行事には区民参加が非常に少なく役員は人集めに苦労しております。</p> <p>宮城地区には伝説で有名な八面大王の岩屋、市指定の文化財も有り、北アルプスの玄関口として県内外からシーズンになると大勢の観光客が訪れています。</p> <p>区の真ん中に位置している別荘地区も最近では世代が変わりつつ定住者も増え学校を通して子供たちの交流も始まっています。別荘地区の世帯数の割には区に参加している加入者が少なく、以前は未加入者対策を盛んに行い働きかけをしましたが思ったより加入者が少なく、今でも区の最重要課題です。そこで区では子供たちの力を借りて人集めの役者になってもらえばと考えました。最近では昔と違い今まで考えられなかった事件や事</p>			

故が多い物騒な世の中、子供たちが参加する行事には比較的保護者同伴で参加しています。

今年、区では大勢の人に参加して貰いたい交流行事、八面大王岩屋近くの探索、夏の祭りの納涼祭、親水公園でのます掴み体験、大宮神社の秋祭り、日赤奉仕団と自主防災合同の防災訓練、子供の映写会等を行いました。

参加者が増えた理由は今年購入した、綿あめ機械、カキ氷機、たこ焼きコンロなど子供の好きな備品のおかげです。

各行事には大人がついて子供たちに機械を教えながらお手伝いをしてもらい、回を重ねる事によって子供は覚えが早く中には職人顔負けの人も現れました。その話が伝わりはじめ、とても良い雰囲気になってきております。

今年購入した機会を常会単位まで貸出をし、お楽しみ会などを開いて頂き、近所付き合いが昔のような支え合える地域になればと考えます。また近所の人たちと顔見知りになることによって、万が一の災害時にも近所の支え合いが自然にできると思います。

来年も機会の種類を増やし子供たちと遊び、そして楽しみます。

子供たちが喜んで集まる場所には、家族も参加してくれるので最高の良い交流場所になります。

まさに、世代を超えて伝統、伝説、文化が繋がっていくと思います。

7月23日
ます掴み大会



8月14日
古厩区納涼祭



9月9日
大宮神社祭り



事業名 花咲く明るい地域作り

団体名	橋爪シニア倶楽部		
代表者名	市田 愛一郎	連絡先	
活動拠点所在地	橋爪地区	構成人数	36人
事業実施総額	177,357円	補助金額	86,000円
主な補助金使途	苗代、防腐剤、ホースリール等		
事業実施日・期間	平成29年4月1日～平成29年12月30日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他店の案内看板があり見苦しかった。→お願いして撤去してもらった。 ・全体的にバランスに欠ける。何となくまとまりに欠ける。 ・道路、駐車場、花壇とのゾーニングの欠如。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員により看板を手作り。 ・他地区の花壇を見学。北海道富良野のフラワーセンター、福岡空港入口の花壇を視察に行き、参考にした。 ・会員によるシリカゲルブロックでゾーニング。 ・ロープを張り、正確にレイアウト。 ・花壇のデザインもアピール！ <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穂高支部では3位（優秀賞）に。 ・市老連“花いっぱいコンクール”では金賞を受賞。 <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美しい花壇で、行き交う人々に感動を与え、心をいやすことができたと同時に会員の生き甲斐にも繋がった。 ・地域の景観の場となり、明るい地域作りに貢献できた。 ・今後は、年度ごとにテーマを設定して花壇作りをしたい。 		

ロープを張り
正確にレイアウトしま
した。



会員により
看板手作り。



ブラカードで
アピール!



穂高支部 優秀賞

花いっぱいコンクール
金賞

がんばりました!



見事に咲き乱れました。



事業名 三田体験農場

団体名	三田体験農場		
代表者名	臼井 美和子	連絡先	
活動拠点所在地	堀金三田	構成人数	19人
事業実施総額	517,525円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	食品乾燥機、謝礼、農薬農業資材等		
事業実施日・期間	平成29年4月～平成30年2月		
事業概要・成果 ・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・トマトケチャップ作り 堀金三田地区で作られた加工トマトで、トマトケチャップを作りました。 昨年に引き続き希望者が多く、今後の参加希望も多かった。 ・さつまいも栽培 栽培したさつまいもで、芋ほり体験や芋干し作りをしました。 食品乾燥機を導入し、手軽に衛生管理のできる加工に挑戦しました。 JA あずみ三田支所より場所提供の協力をいただき、地域の方々に接しながら芋干し作りを行いました。芋干しとリンゴを乾燥して、今後はトマト等いろいろなものにチャレンジしていきたい。 10月21日に第1回三田体験農場収穫祭を開催し地域へのPR活動を行いました。約40名の参加があり、今後も引き続きイベントを行っていききたいと思います。 ・大豆栽培 加工しやすく、栽培しやすい大豆を栽培し、豆腐を作りました。 味噌作りは日程調整ができず、中止しました。 		
●10月21日 第1回三田体験農場収穫祭			

● トマトケチャップ作り



● さつまいも栽培





● 芋干し作り

● 大豆栽培



事業名 西原納涼祭

団体名	穂高区西原常会		
代表者名	姉崎 栄一郎	連絡先	090-1734-2519
活動拠点所在地	安曇野市穂高 西原公民館	構成人数	16人
事業実施総額	159,705円	補助金額	50,000円
主な補助金使途	住民への提供用食材・ゲーム景品		
事業実施日・期間	平成29年6月24日～平成29年12月11日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>【目的】 地域住民の交流を目的とし、住民同士のつながりを深め、「思いやりのある地域」・「ささえあい思いやりの有る地域」を目指します。 近年常会への加入者の減少が見られるため、活気を取り戻したい。</p> <p>【成果】 当日は 役員・ボランティアにより会場の準備を行い、西原地区住民が悪天候にもかかわらず多数の参加により、用意した食べ物・余興・ゲームを楽しんでもらいました。 新規に入居された方の参加もあり、住民の交流が深められたと思います。</p> <p>【今後の課題】 まだ、参加されない住民もいることから、さらに魅力有る催しと出来るように、今後役員で考えていきたい。</p>		
納涼祭当日 (平成29年7月29日) 午前中準備 テント、 テーブル、舞台の準備			
夕方 住民の歓迎準備完了			

来場者が集まり始める



いよいよ開幕



育成会の子供神輿



子供達と一緒にステージ

マジックショーに子供
たちが集まる





ステージの歌を聴きな
がらみんなで話し合う



さあ楽しく過ごしたそ
の後は、翌日の後片付け
だ！

事業名 「地域密着人口と共に」(地域密着人口とは子供と高齢者の合計)

団体名	飯田区お祭りを楽しむ会		
代表者名	小西 茂	連絡先	090-8874-5322
活動拠点所在地	飯田公民館内及び敷地内	構成人数	28人
事業実施総額	489,400円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	区民お楽しみ会開催及び音響設備整備		
事業実施日・期間	平成29年11月3日～平成29年11月4日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>① 企画目的より 子供の時期と高齢の時期は、いずれも“土着性”ないし地域との関わりが極めて強いという点が特徴であり、わが地域は今、この世代との相互間理解と融合が必要な時期であるが、200人前後の区民が訪れて頂き、当初の目的は完遂できたと考える。</p> <p>② 実施内容より 老若男女が参画出来よう「おもてなし」をテーマに全てにサービス精神を基本として実施できた。</p> <p>1. 屋台形式として、てんぷらそば(てんぷらは自家製)、焼き肉を出店。年代を問わず好評であった。</p> <p>2. アマチュア ジャズカルテット演奏会老若男女問わず楽しめた。 リバータウン、ディアガーデン区民(新築10年経過世帯)が100世帯あり、就園前、小学低学年の児童が多く大変盛況であった。</p> <p>③ 音響設備の充実として 予てよりイベントにおけるアナウンス機材が老朽化していたが、今企画で購入でき、幅ひろく利用可能となった。</p>		
つながりひろがる地域づくり事業補助金で購入(多機能ワイヤレスアンプ)	 		

(つながりひろがる地
域づくり事業)活動記録



事業名 熊倉体操教室

団体名	熊倉春日会（老人クラブ）		
代表者名	山田 高久	連絡先	72-3817
活動拠点所在地	熊倉公民館	構成人数	87人
事業実施総額	158,488円	補助金額	78,000円
主な補助金使途	健康運動指導士講師料及び事務費		
事業実施日・期間	平成29年6月13日～12月26日 計14回		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>安曇野市では、介護予防の一環として推進しております事業として、年をとってもいつまでも元気で活動的な生活を続けられるには身体を動かすことが最善をされており、体操教室を推進しております。</p> <p>最近、方々から足腰が痛い、運動をしたいが一人では何をしたらいいか解からないと聞かれたことから、保健師さんのご指導により、熊倉春日会（老人クラブ）で体操教室を開催することにしました。</p> <p>開催については、月2回の12回開催の結果、多くの参加を得て参加者の皆さんが身体の調子良くなった、教室に来るのが楽しくなったとの意見を頂き、29年度も是非続けて欲しいとの声が多く、「つながりひろがる地域づくり事業補助金」を受けての「熊倉体操教室」を続けることになりました。</p> <p>そこで始めるにあたり、今年度は熊倉区全体を対象として「熊倉区」「熊倉社会福祉協議会」の賛同を頂き、共催で行うことにしました。</p> <p>開催日は月2回、7月～12月まで計14回の開催となり、185名の参加でした。日頃の運動不足解消と区民の交流の場として楽しい有意義な教室の場となりました。</p>		
熊倉体操教室 実施状況			

熊倉体操教室
実施状況



事業名 高齢者外出支援

団体名	NPO 法人 からだ堂		
代表者名	吉原 宣親	連絡先	72-5535
活動拠点所在地	安曇野市豊科 5946-1	構成人数	10人
事業実施総額	533,106 円	補助金額	149,000 円
主な補助金使途	中型バス代金・レンタカー代		
事業実施日・期間	平成 29 年 6 月 9 日・7 月 18 日・7 月 24 日・10 月 23 日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>今年第 1 回の富岡製糸工場の見学には 20 名の参加頂き、ガイドの説明を受けながら元気な方の支えにより休みながらも歩いて回ることができました。</p> <p>大町国際芸術祭には、筑北・波田・三郷・松本地区からの参加者多数のため 2 回に分けて鑑賞することになりました。広範囲の中長い距離を歩かなくてはならなかったのですが、皆さんと助け合い休憩を取りながら芸術作品を堪能してまいりました</p> <p>山梨ブドウ狩りは、早朝からバスに分乗しトイレ休憩を多くとりながら、ホテルにおいては昼食後温泉入浴を楽しみながら皆さんで歓談をし交流を深めることが出ました。</p> <p>この事業も 2 年目を迎え、参加を心待ちにしている方が大勢いることを知りました。友人の方の住所連絡先を登録しておき次回を楽しみにしているとの声を聴き、今後も参加者のニーズに答えるよう安心安全を考え実行してゆきたいと思います。</p>		
富岡製糸場にて、ガイドによる説明			

7月18日の大町国際
芸術祭



7月24日の大町国際
芸術祭




大町ダム



山梨武田神社



事業名 神竹灯コンサートIN安曇野神竹灯2017&竹楽特産品紹介

団体名	安曇野に暮らすように泊まる実行委員会		
代表者名	辻谷 洋一	連絡先	82-5820
活動拠点所在地	安曇野市穂高 5047	構成人数	19人
事業実施総額	443,520円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	特産品紹介・神竹灯コンサート		
事業実施日・期間	特産品紹介11月17・18・19日/神竹灯コンサート12月1・2・3日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>特産品紹介のためのブースを大分県竹田市のイベント「竹楽」期間中に地産地消村内に開設し来場者に試食・配布し、安曇野産リンゴの美味しさをPRした。</p> <p>「竹楽」開催中に各地から訪れる約18万人とも言われる観光客のいちぶにリンゴという特産品を通じて「長野県安曇野市」を観光促進に寄与できた。</p> <p>今後の展開としてはこれをきっかけとして安曇野を訪問する観光客が増加すれば地域の活性化につながるものと思われる。</p> <p>また、特産品のリンゴについても新規の販路拡大につなげていければと思う。</p> <p>安曇野神竹灯期間中に開催するコンサートは、神秘と幻想的な雰囲気、穂高神社の境内の中で竹灯籠のキャンドルのゆらめきと共に流れる歌声は訪れた方々の癒しの時間となったようである。</p> <p>各地からのツアーバス、土曜日に執り行われた結婚式なども相まって過去最高の入場者数（主催者発表15000人）を数えた。</p> <p>今回初めて竹灯籠の数が10000本を数えたこともあり、観光促進の意味において認知され、安曇野の冬のイベントとして定着していくものと確信する。</p>		
特産品紹介	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">地産地消村（地元生産者限定の販売スペースにて）</div> <p>平成29年11月17～19日 大分県竹田市「たけた竹楽」にて安曇野リンゴのPRを行った。</p>		
			

三日間のイベントで15万人以上の観光客が訪れます。



ユニット神竹灯

手回しオルゴールで歌う臼井則孔

神竹灯コンサート

安曇野神竹灯期間中
連日2回の演奏をして
いただきました。



非公認キャラクター安曇ガッタローも飛び入り

事業名 安曇野ドリンクフェスタ

団体名	安曇野ドリンクフェスタ実行委員会		
代表者名	宮澤 豊作	連絡先	72-2223
活動拠点所在地	安曇野市豊科 4492-33	構成人数	約30人
事業実施総額	790,563円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	テント、テーブルレンタル代・印刷代		
事業実施日・期間	平成29年5月27日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野の地域資源の水を原料として商品化された日本酒、ビール、ワイン、焼酎、ソフトドリンク等を市民や観光客に味わい飲んで楽しんでもらいたい。 ・今年は出展ブースも6社増え、又南濃、社協、こども病院、松本山雅さん方々にも応援して頂き、2年目になり更に地域のつながり及び活性化が出来、住民の交流が深まりました。 ・次回は反省点をふまえ、継続し安曇野のイベントの一つにしたいと思います。 		

タウン情報
(5月23日付け)



タウン情報

第2回安曇野ドリンクフェスタ(実行委員会主催)は27日、安曇野市役所本庁舎東玄関前で開く。安曇野の水を使った飲料を一堂に集めたイベントで試飲なができる。今年はお得なチケットも販売する。(浜秋彦)

安曇野、大町市、池田町、筑北村の日本酒、地ビール、そば焼酎、清涼飲料水のメーカー10社が出展。100円で樹脂製のグラスを購入する。祭りの美術品ではバラのグラスを購入する。市役所周辺で1日楽しんではいよいよ話した。午前10時～午後4時。実行事務局72・2223。

安曇野、大町市、池田町、筑北村の日本酒、地ビール、そば焼酎、清涼飲料水のメーカー10社が出展。100円で樹脂製のグラスを購入する。祭りの美術品ではバラのグラスを購入する。市役所周辺で1日楽しんではいよいよ話した。午前10時～午後4時。実行事務局72・2223。

事業名 こどものための音楽会 vol.6

団体名	こどものための音楽会実行委員会		
代表者名	市川 美穂	連絡先	50-5191
活動拠点所在地	穂高交流センター みらい	構成人数	12人
事業実施総額	185,000円	補助金額	92,000円
主な補助金使途	会場使用料、劇団・講師謝礼		
事業実施日・期間	2018年2月11日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に親しむ子どもたちに発表と交流の機会を提供し、子どもたちの心身の健全な育成を図る。 ・指導者の交流も深める。 ・音楽を通じて地域の子どもの絆を深める。 ・事業を通じて地域の音楽文化の振興を図る。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇と音楽で楽しむ「くつやとこびと」 「劇団すずの音」のお芝居と、合唱、器楽演奏によるコラボレーション。 ・公募により子ども合唱団を結成、10月より隔週で練習。 ・全体で3回のリハーサルと本番を通して交流を深める。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や教室の枠を越えて、音楽を通して小学生から高校生までの子どもたちが協力し、舞台を創ることができました。 ・合唱練習開始時の硬い表情から、半年間での大きな変化とまとまりが見られました。 ・5名の音楽教室の先生と保護者、会場のスタッフのサポートにより、年間の活動を円滑に進めることができました。 ・総勢50名近くの出演者、スタッフが、役割を分担し、積極的な活動となりました。 ・舞台を創ることと表現することの楽しさを味わうことができ、のびのびと和やかな雰囲気のととなりました。 ・満員の会場と舞台が一体となって繋がることができました。 		

音楽会の様子



事業名 節分豆まき

団体名	豊科商店連合会（事務局 安曇野市商工会内）		
代表者名	高原 茂	連絡先	72-2178
活動拠点所在地	事務局 安曇野市豊科 4710	構成人数	38人
事業実施総額	243,018円	補助金額	116,000円
主な補助金使途	節分豆まき		
事業実施日・期間	平成29年12月10日から平成30年2月7日まで		
事業概要・成果 ・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・事前会議 3回 (H29年11月24日・H30年1月19日・30日) ・節分豆まき H30年2月3日 13時集合 14時よりお汁粉のふるまい 14時30分より神事斎行 14時45分頃より豆まき開始 15時頃 豆まき終了 16時 後片付け終了 解散 ・当日は天候にも恵まれスタッフ含め約130名の参加者があった。 ・商工会豊科支部女性部の皆さんによるお汁粉のふるまいも好評で予定を上回る約300杯がふるまわれた。 ・参加者は土曜日という事もあり、親子連れが6割から7割特に小学生低学年以下（未就学児含む）の来場が多かった。また、全体としては幅広い年代の方にお越し頂いたように思える。 ・お汁粉のふるまい会場では、様々な年代の交流も見られた。 ・普段、あまり商店街を利用していない方も多く来場いただいた。 ・豆まきの前に神事を執り行うことにより、日本の伝統文化に触れる機会を取り入れたことは良かったと思う。 ・豆を投げる『福男・福女』の方は、商店街関係者の12歳から72歳までの方にお願ひしご参加いただいた。 ・各商店・豊科スタンプ会から頂いた協賛品も好評で、商店の周知には一定の効果があったと思われる。 ・事故・ケガもなく無事終わることができ、よかった。 ・来年度以降は、協賛店舗を拡大しスタッフ・景品のより一層の充実、周知にも力を入れ幅広い年代層の来場を促す。また、来場者を商店街へ還流させる方法も検討していきたい。 <p>今回は土曜日だったため開始時間を14時に設定できたが、来年は月曜日になるため開始時間・日程ともに検討していきたい。</p>		

準備の様子



まちづくり会館内
お汁粉のふるまい



豆まき



事業名 地域における食生活の改善事業

団体名	食の寺子屋 給食部		
代表者名	三好 祐子	連絡先	88-8905
活動拠点所在地	安曇野市穂高 5227-15	構成人数	30人
事業実施総額	616,500円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	施設借上料、謝礼、印刷製本費、役務費、材料費		
事業実施日・期間	下記のとおり		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>1. 酵素玄米学習会 (2017年5月19日 丸山夫妻宅)</p> <p>松川村在住の丸山夫妻による、酵素玄米の炊き方講習会を茶話会形式で開催しました。酵素玄米は1歳の赤ちゃんでも食べられるほど消化・吸収が良く栄養に富んでいて、玄米特有の食べづらさがなく、美味しく玄米の栄養を頂ける方法を学ぶことができました。また、丸山夫妻のほぼ自給自足の生活、循環のある暮らしの中に、「健やかに暮らす」とはどういうことかというヒントがたくさんあり、有意義な講習会となりました。</p> <p>2. 男の料理教室 (2017年7月23日 Grocal Foods NAVEL)</p> <p>子どもたちの食環境を整えるうえで「父親」の役割も大きいことから、NHKカルチャーセンター講師・NAVELの崎本シェフを講師に招き、「お父さん」が気軽に作れる料理教室を開催しました。参加したお父さん方が、身近にある旬の食材で気軽に作れる料理を教わることができました。参加者は実際に家で料理を作って、Facebookに投稿してもらうという宿題も出たことから、学んだ料理を自宅で実践するところまでフォローできました。男性が気軽に参加できる料理教室はまだまだ少ないので、今後も季節に合わせた食材を使って、男性のための料理教室を開催していきたいと考えています。</p> <p>3. 子どもと食養生講座 (2017年10月20日 穂高勤労者福祉センター)</p> <p>食事療法士の辻野将之先生による子どもと食養生の講座を座談会形式で開催しました。市内の子育て中のお母さん方やお父さん方を中心に、食養生の基本と子育てにおける食養生の上手な活用法について学べる講座となりました。子供が病気の時の食事や、病気にならないための健康な心身の在り方について、それぞれの実体験を基に意見交換できる場となりました。子育て中のお母さんは、子供の食について思い悩むことも多いので、今後も継続的にこのような講座を開催していきたいと考えています。</p> <p>4. 映画「いただきます」上映会 (2018年1月8日 穂高交流学習センター みらい 多目的交流ホール)</p> <p>全国から教育視察の絶えない高取保育園の1年間を追ったドキュメンタリー映画の上映会を開催しました。参加者は3回上映の合計244名。高取保育園は、西園長先生の「知育、体育、徳育の根本に食育がある」という信念のもと、園児自らお味噌を仕込んだり、漬物や梅干しを作ったりしています。高取保育園の子供たちは、ほぼ毎日残食ゼロ、子供たちが生き生きと生活している姿が見られ、幼児期において「本物の食事」を体感するこ</p>		

との大切さを学べる場となりました。

また、上映後は食事の専門家にナビゲーターをお願いし、ゲストとしてくじら雲保育園の依田敬子先生（午前の部）、明科中学校の古幡栄一校長先生（午後の部）、有機農業バジルクラブ代表の鈴木達也さん（夜の部）をゲストとしてお招きし、子供の健全な成長における大人の在り方について、会場の皆さん方と意見交換できる場となりました。またアンケートを実施した結果、6割の方から回収できました。給食部の活動に興味のある方や、給食部で取り上げてもらいたいテーマなどを書いて頂いたことで、今後の給食部の活動の方向性を見出すことができました。

5. 味噌造りワークショップ（2018年1月28日 創作精進料理 一絲）

安曇野産の無農薬玄米、自然栽培大豆を使い、親子で味噌造りを体験できるワークショップを開催しました。お味噌は歌って踊って仕込むと美味しくなるということで、プロダンサーのflep funcel（フレップファンズ！）のお二人を講師にお招きし、踊りながらお味噌仕込みをしました。おんぶの5ヶ月の赤ちゃん、1歳のお子様から10歳のお姉ちゃんまでグループ分けし、皆で味噌造りの作業を進めました。

たくさんの人の「素手」で塩と糶と大豆をまぜ、目に見えないけれども存在する微生物を感じ、その微生物の働きによってお味噌が美味しくなることを親子で体感できる良い機会となりました。仕込んだお味噌は各自持ち帰り、約1年後に美味しいお味噌が出来上がります。今では買うことが当たり前のお味噌も、流通ルートに乗ると本物のお味噌ではなくなってしまうことなどを知ることができる、非常に有意義なイベントとなりました。

1. 酵素玄米の炊き方講習会の様子



3. 子どもと食養生の様子



4. 「いただきます」上映会の様子

5. 味噌造りワークショップの様子



事業名 協働事業による無農薬野菜を目指して

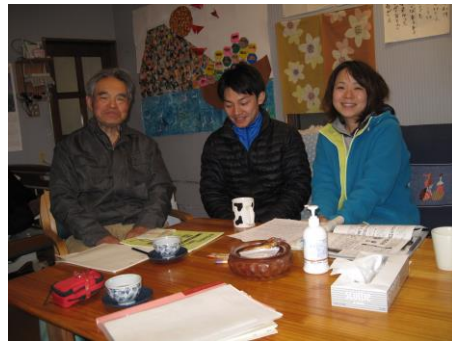
団体名	セニョール&セニョリータ		
代表者名	太田 雅之	連絡先	77-2579
活動拠点所在地	安曇野市三郷 3446	構成人数	7人
事業実施総額	140,960円	補助金額	70,000円
主な補助金使途	施設借用費・消耗品		
事業実施日・期間	平成29年4月1日～平成29年3月31日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>[事業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無農薬野菜を基にして野菜の試食・新しい調理方法・その講評など。 ・ 地区の中での福祉との連携 ・ 無農薬野菜栽培の次代の人材育成 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで地区外に目を向けていたが、その後、地区の人との連携をすることにより新しい事業が進展してきた。 具体的な例としてNPO法人アルウィズのデイホーム「楓」との連携を初めた。2018年から3ヶ年を目標に我々が機械と知恵と口を出し、先方からは利用者を含めた人を出すことで、年間計画・係・方法等を決めて発足出来た。手始めにジャガイモやカイワレ大根の栽培を始めている。当然利用者や職員、そしてボランティアなどの多くの人に参加するのでよい地域作りが出来ると思っている。 ・ 将来繋いでもらう人は若い人がよい。何と云っても物事に積極的に有り・力があり・よいアイデアが出てくる。 <p>「今後の展望」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無農薬野菜を作ることでは本当に苦労した。当初はほとんどの精力をそれに注がざるを得なかった。しかし、その需要は年々大きくなっているように感じる。その様な野菜を要求する人たちは個人である。その個人をまとめようとしたが力不足で出来なかった。以前やっていた「自然農法野菜の会」の様な物を目指したが品物の数が少なく挫折。そこで、今年度から始めたこの頃話題になり始めた「福祉と農業」の観点から、進めるのも一つの方法と思っている。 ・ 次代の青年は本年高校を卒業し、将来は農業を目指している。今、ここでは自然農法全般を教えている。 		

NPO法人アルウィズのデイホーム「楓」で責任者と年間の仕事の打ち合わせ。

冬は虫はいないし、病気も無い。無農薬で野菜を作るには絶好の時。

ジャガイモも 2 月に種芋を植えば 6 月には収穫できる。(雨期前の収穫は楽だし病気も虫も少ない、自然農法の必須)

ハウスでは 1・2 月にレタスやネギの種蒔きをする。発芽は乳酸菌もみがらボカシを作る過程で出る発酵熱を利用。好気性醗酵のため 70℃近くまで温度は上がるため虫の発生はない。



楓で打ち合わせ



自然農法の野菜をみています



ジャガイモの種芋を植えるのくん炭散布で雪を溶かす



将来ホープの青年へ、今の時期のたねまきの指導



会員の会合 (ハウスの中は寒かった)

事業名 地域で共に生きようフェスティバル

団体名	地域で共に生きようフェスティバル実行委員会		
代表者名	大和 輝男	連絡先	33-8955
活動拠点所在地	事務局：NPO 法人あづみ野	構成人数	10 団体
事業実施総額	164,396 円	補助金額	67,000 円
主な補助金使途	借上料（施設使用料） 印刷製本料 等		
事業実施日・期間	平成 29 年 9 月 2 日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>【事業概要・実施状況】</p> <p>当事業は、精神疾患・精神障がいの誤解や偏見等の軽減のため、また、当事者への理解を促進するために行うものです。正しい知識の普及と肯定的なイメージの形成を目的として地域住民との交流の機会を設けたり、事業を推進する過程において、精神障がいの普及啓発活動に取り組んだりしています。</p> <p>当事者が参画することを重視し、障害福祉サービス事業所・事業者・医療機関・安曇野市福祉担当職員ら関連団体が実行委員会を合同で設置しています。『共に生きようフェスティバル』（以下、フェスティバル）の開催を隔年で開催しており、今回で第 6 回目を数えました。</p> <p>実施内容は、次の通りです。まず、フェスティバル開催までの期間、チラシを民生委員・精神保健福祉に関連する事業所や医療機関、さらに企業等へ配布、タウン情報や広報誌への掲載も行いました。フェスティバル当日は、ダンスチームの演技、映画上映、クイズ大会、ゲーム、障害福祉サービス事業所による製品の販売など、楽しみながら交流できる企画に加え、専門職による相談コーナーの設置、人と人をつなぐ工夫としてスタンプラリーを行いました。会場を図書館に設定した効果もあり、子どもから高齢者、男女を問わず、幅広い年齢層の参加者がありました。大勢の当事者も参加して運営にもあたり、さらに学生ボランティアも加わり、かかわり合いが自然と生まれていました。</p> <p>【成果】</p> <p>多数の来場者と障害福祉サービス事業所や医療機関相互の交流の場となりました。様々な場を通じて、このように直接かかわりあう機会は、精神保健福祉に係る普及啓発、当事者の社会参加の促進に効果があると考えられます。実行委員会を設立していることにより、精神保健福祉の現状と課題を共有することができ、今後の地域作りにつながると期待できます。</p>		

【今後の展開】

フェスティバルの開催に当たっては、今後、周知・広報の方法の拡大と工夫により、さらに一般の方の参加を図ります。多様な情報発信と関係機関や地域との連携を行い、準備段階からそれらを推進していきます。

第6回
地域で共に生きよう
フェスティバル

平成29年9月2日
午前10:30~
安曇野市穂高交流学習
センター みらい

受付の様子

スタンプラリーやアンケートを実施



学生ボランティアが参加
様々な年代層で交流が生まれます

「スーパーボーイス」による公演



ダンスに合わせ
会場は拍手に包まれていました

野外にて

わたあめの無料配布



パンフレットに無料券をつけます

福祉事業所による展示・販売



日頃の活動の紹介にもなります
素敵な作品・商品が盛り沢山です

〇×クイズ



お子さんの参加が多く
皆で楽しめる企画となりました

ダーツ



地域の社会資源を知るきっかけ
作りとして 福祉事業所が担当

事業名 語り継ぐ安曇野をめぐる水と暮らし

団体名	NPO 法人 川の自然と文化研究所		
代表者名	吉田 利男	連絡先	72-3768
活動拠点所在地	安曇野市全域	構成人数	25人
事業実施総額	225,170円	補助金額	108,000円
主な補助金使途	講師謝礼、パネル作成費、印刷費、通信費		
事業実施日・期間	平成29年6月1日～平成30年3月31日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>【目的】 安曇野市域で水と緑と歴史を結ぶ「回廊」の過去と現在を整理し、「川の果たす役割の理解を促進すること」を目指し、①安曇野市域の水に関わる自然景観拠点や歴史・文化施設、伝統行事等を調べる、②古写真を収集しデータベース化する、③親子水辺観察会を開催する、④安曇野の水に関わる歴史文化と自然に関する講演会を開催する、などを実施しました。</p> <p>【成果】 ○川の自然と文化講演会の開催(語り継ぐ安曇野をめぐる水と暮らし(3)) 松本盆地の多様な伝承文化と儀礼、生活に焦点を当てて、倉石忠彦先生(国学院大学名誉教授)に「お舟祭り」と川と海と一海を慕うこころ」と題し講演をしていただきました。また、北野聡先生(長野県環境保全研究所)「変わりゆく千曲川・際川の魚類と漁業」と題し、ダム建設や放流などにより安曇野及び県内の河原の魚類・漁業がどのように変化してきたかを解説していただきました。成果は、研究集録として3月に刊行します。</p> <p>○安曇野市内でのホタル観察会の実施(せせらぎ、堀金・岩原地区ほか) 安曇野市内の河川で、「ホタルも棲める川にはどのような生物がいるか」を知るために、川の多様性に応じて色々な生き物が生息していること、河原の礫の大きさによりそこにすむ水生昆虫も変化することなどを話しました。</p> <p>○古写真の収集と講演会及び安曇野環境フェア2017での紹介 明科及び安曇野・松本の用水堰に関する古写真を収集し、データベースとして整備する作業(電子化)を行いました。また、今後も古写真の収集と整理を進めていくため、講演会および環境フェアで事業内容を紹介しました。</p>		

【今後の課題】

川の自然と人のつながりを考える契機として、小学生やその親を対象とした観察会を継続的に実施していきます。今後とも行政・市民・他団体と活動連携をはかり、協力を得て、古写真の収集と整理を行い、貴重な地域財産として蓄積し、将来的な利活用や安全な保管について検討していきます。

それらの延長として、安曇野市内の水と緑と歴史を結ぶ「回廊」のまとめを進めます。

第 12 回

「川の自然と文化」

講演会

7月8日：穂高会館（穂高公民議室）

50名の参加



会場の様子



倉石先生



北野先生

安曇野環境フェア

（10月7-8日）での展示（堀金体育館）

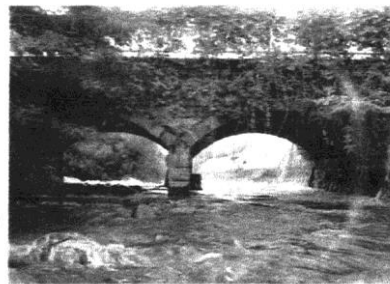


説明する理事長



こんな小さな子も興味津々！

古写真の収集



万水川の眼鏡橋（大正 10 年）



拾ヶ堰の取水口竣工式



第一熊倉水門竣工式(明治 45 年)

安曇野市市民協働事業提案制度

事業名 ガーデンファーム(せんぜ畑)ライフを通じた地域の絆づくり事業

協働事業 実施団体名	安曇野をもっと元気にする会	安曇野市	市民生活部 地域づくり課
代表者名	三好 一賢	代表者名	課長 小林 一彦
活動拠点所在地	穂高有明 2105-879 及び穂高新屋区		
事業実施総額	約 50 千円		
事業実施日・期間	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>(事業の目的)</p> <p>近年は就農者の高齢化などにより、耕作放棄地が山際に留まらず住宅地付近にまで見られるようになってきて、雑草や害虫の発生等による住環境の悪化が懸念されています。</p> <p>そこで私達は、荒廃する住環境対策を地域での共通した課題と位置付け、現代版「せんぜ畑」として「ガーデンファーム」を提案し、地域と協働して課題解決を図るとともに、農家と非農家の理解を深め、コミュニティにおける地域の絆を育みたいと考えます。</p> <p>さらに、この活動は「農業の持つ多面的機能」である、農地を守り地域の交流促進、生きがい作り、癒しの提供、より健康な暮らしなど、付加価値を生み出すことから、安曇野暮らしの象徴として定住促進にも役立つものと考えます。このことから、本事業を通じて、協働による課題解決の取り組みの実践を広げ、以て協働の理解促進を図ることを目的とします。</p> <p>(実施内容)</p> <p>5 月 ガーデンファームを楽しむ人の「春の野菜づくり講演会」開催 (80 人参加)</p> <p>6 月 団体会員による「オープンガーデンファーム」実施</p> <p>10 月 ガーデンファームを楽しむ人の「秋の野菜づくり講演会」開催 (50 人参加)</p> <p>新屋地区にて「ハロウィン」イベント開催</p> <p>2 月 熊井明子さん講演会開催 (100 人参加)</p> <p>「豊かな安曇野暮らし～ガーデンファームライフを楽しむ～」</p> <p>3 月 「ガーデンファーム紹介誌」発行</p> <p>(成果)</p> <p>一般市民向けの 3 回に及ぶ講演会を通じて市内にはガーデンファームに関心を持ち親しみたいと考える皆さんが大勢いることがわかりました。また 10 月にはこれらの皆さんによる「Garden Farm Life of</p>		

「Azumino」の会が結成され、本事業の趣旨を踏まえて独自の活動が始まりました。また熊井明子さんとも交流が深まり積極的に応援いただくことができました。この会は農家も非農家も区別なく交流する貴重な機会となり各々居住地における理解も深まるものと期待します。

(今後の展開)

この事業を通じて生まれた「Garden Farm Life Azumino」の会(21名)は事業趣旨を踏まえ、引き続き講演会、学習会、交流会等を実施します。また農家民泊事業、全国緑化フェア、都市農村交流、食育等の事業とも連携を図りつつ、豊かな田園生活の普及と安曇野への定住促進、地域コミュニティの形成など、協働により様々な課題解決に取り組み、実践を通じた協働の理解促進に努めます。

(H29.5) 講演会
春の野菜づくり

講師 吉田清志氏
体験発表
杉下久子氏
長澤雅子氏



(H29.10) 講演会
秋の野菜づくり

講師 吉田清志氏
体験発表
松尾園子氏



(H30.2) 講演会
豊かな安曇野暮らし
～ガーデンファームライフを楽しむ～

講師 熊井明子氏



	協働事業実施団体	市
役割分担	参加者呼びかけ、チラシ等配布 講師謝礼 取材、素材提供、レイアウト	市施設の申込み 広報 ちらし、看板、資料等の印刷 講師折衝、謝礼 情報の募集 監修・校正・印刷

安曇野市市民協働事業提案制度

事業名 ～あなたの夢が叶う!?～「協働ワークショップ」で体感しよう

協働事業 実施団体名	E・BE・YA あづみ家	安曇野市	市民生活部 地域づくり課
代表者名	長坂 智恵子	代表者名	課長 小林 一彦
活動拠点所在地	豊科交流学習センターきぼう多目的交流ホール・市役所大会議室		
事業実施総額	17,000 円		
事業実施日・期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>(事業概要)</p> <p>■事業の目的 安曇野市が掲げる「協働のまちづくり」を推進するために、ワークショップ開催を契機として、市民に理解を促し啓発、普及することをめざします。</p> <p>■参加総数 23 名 男性 10 名、女性 13 名 (内高校生 6 名)</p> <p>■実施内容 「明日のタネをまくのは今日！」をキャッチフレーズに、若い人にも関心を持って参加できるように未来志向で企画しました。初回は、協働の場づくりとしワールドカフェを行い、2 回～4 回では、KJ 法を用いたワークショップを実施し地域課題や地域の魅力、資源などを浮かび上げさせ、課題解決、実現に向けたアイデアを出合いました。5～6 回では『協働』による事業企画を立案しました。</p> <p>(成果) アンケートから、参加者の大半から「協働についての理解ができた」との回答をいただき、目的で謳った「協働の理解と啓発」について一定の成功をおさめました。 事業実施にあたり構想から企画・立案と準備段階からじっくり時間をかけ市と協議しながら進めたため、両者の特性や持ち味等を理解し合い信頼関係が培われました。名実ともに協働しながらのワークショップを開催することができました。</p> <p>(今後の展開) 「協働の場づくり」を目的にワールドカフェを市内で実施します。協働の理解や対話の成熟度向上をめざし、「プレスト (ブレンストーミング)」+「自分ごと」を取り入れたワールドカフェ形式の井戸端ワークショップを検討しています。ワークショップで提案された「協働企画」は、事業化に向けどのようなフォローアップができるかを考案中です。 (任意でうかがったアドレスを登録し情報伝達等できる SNS は構築済)</p>		

①告知と参加募集チラシ

②ワールドカフェ
テーマに沿って想いを語りました。

③地域課題や地域の魅力・資源を出し合いました。

④各グループから出たテーマから投票により取り組むテーマを決めました。

⑤テーマに基づき、課題解決や実現方法のアイデアを出しました。

⑥協働の再確認を行い、今までのワークを統合した事業提案へ…。

⑦企画書が出来上がり、各グループ発表。

参加募集チラシ



ワールドカフェ



投票による
テーマ決め



積極的に
アイデア
を出しました!

中間発表!

うーん、悩むなあ



最終発表!



役割分担

協働事業実施団体

ワークショップの設計・企画書づくり
マスコミやメディアへの取材依頼
案内ちらし作成
団体への告知および案内
オリエンテーション用資料づくり
WSの進行・ファシリテーター
ワーク後のとりまとめ作業
報告書の作成
団体等への周知・啓発
(くるりん通信にシリーズ掲載)

市

プレスリリース
広報あづみのへの掲載
市職員案内
案内ちらし、ポスターの印刷
生徒さんの参加依頼
(高等学校へのお願い) 文書作成
参加者のとりまとめ
参加者への案内文書作成と送付
WS用備品類の準備と手配
会場の申し込み
進捗状況の情報発信(市HP等)
報告書広報

安曇野市市民協働事業提案制度

事業名 「あづみの国際 DAY」に向けた多文化共生事業

協働事業 実施団体名	あづみの国際化ネットワーク (AIN)	安曇野市	人権男女共同参画課
代表者名	丸山 美枝	代表者名	課長 高山 厚子
活動拠点所在地	安曇野市穂高		
事業実施総額	298,908 円		
事業実施日・期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>(事業概要)</p> <p>安曇野市には現在、1,200 人を超える外国人住民が暮らしています。全国的にみても長野県は 17 番目に在住外国人が多く、安曇野市は長野県内 77 市区町村中、第 7 番目に集住している地域でもあり、決して少ない人数ではありません。このような地域で住民相互の国際理解は、共に住みよい地域づくりを推進していくために、また市民が安心・安全に暮らしていくために大変重要です。</p> <p>(実施事業)</p> <p>① 防災に役立つ「やさしいにほんご」講座&東京消防庁防災体験 (60 名)</p> <p>② 日本語 de スピーチ大会&多文化共生クイズ (70 名)</p> <p>③ あづみの国際 DAY2017!～安曇野で世界を体験! 見る・知る・学ぶ・食べる! (300 名)</p> <p>(成果)</p> <p>① 市の災害速報は専門用語が多く外国人住民に十分に伝わっていないことが分かった。ワークショップでは緊急避難指示を外国人住民と共に「やさしいにほんご」に直して学び、外国人住民へ伝えることの難しさもわかっていただく事ができた。</p> <p>② 来場者より「感動した!」「良かった!」という声をいただいた。外国人住民が日々、何を思い、何を感じているのか直接、地域の方々に聞いていただく事ができた。</p> <p>③ 国際 DAY で①②を写真とプロジェクターで展示発表した。1 年の集大成として「あづみの国際 DAY」のコンセプトを、外国籍住民との理解・交流・協力とし、多文化共生のきっかけとなるように設定した。多文化理解のため、各国の衣食住を中心に、各国ブースの展示、ステージでは音楽パフォーマンスの他に外国人による「母国紹介」「多言語防災訓練」を取り入れた。多くの市民の方々にご来場いただく事ができた。</p> <p>(今後の展開)</p> <p>活動資金が乏しく大変厳しいけれど、多くの市民の方々が楽しみにして下さるので、縮小しつつ協力者を募り、できること・得意なことを持ち寄り継続できる様、工夫していきたい。</p>		

① 防災に役立つ
「やさしいにほんご」
ワークショップ
&
東京消防庁で防災
体験!

防災の専門用語は、外国人住民にとって、大変難しい言葉です。(+_+)



② 日本語 de スピ
ーチ大会 &
多文化共生クイズ

来場者の方より「感動した!」「良かった!」の言葉をいただきました◎



③ 「あづみの国
際
DAY2017!」～
安曇野で世界を体
験!見る・知る・
学ぶ・食べる!

カナダ・中国・韓国・ネパール・ベナン・ブラジル・インドネシア・
フィリピン・ベトナム・日本の皆さんが参加しました。

外国籍の子どもたちも「国際DAY」を一緒に盛り上げてくれました!(^o^)



役割分担

協働事業実施団体

- 1、 チラシ等による周知、参加者募
- 2、 チラシ、資料等作成
- 3、 当日進行
- 4、 通訳
- 5、 内容検討
- 6、 会場配置検討

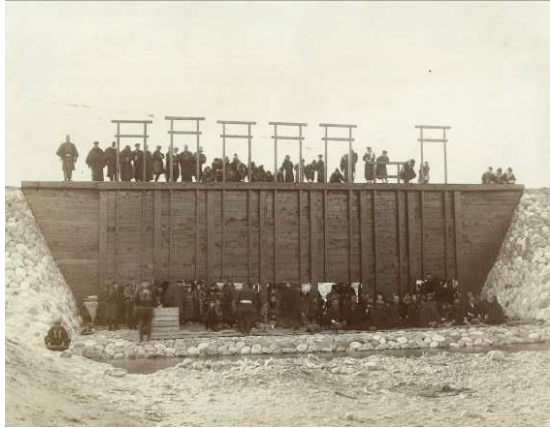
市

- 1、 広報・HP・チラシ等による参加者募集、とりまとめ
- 2、 チラシ、看板等印刷
- 3、 学習会資料作成
- 4、 会場確保
- 5、 市バス予約、保険手続き
- 6、 多文化共生アンケート

安曇野市市民協働事業提案制度

事業名 懐かしき安曇野の水のすがた～移り変わりの記録～

協働事業 実施団体名	NPO 法人川の自然と文化研究所	安曇野市	教育部 文化課
代表者名	吉田 利男	代表者名	課長 那須野 雅好
活動拠点所在地	安曇野市豊科 2209-1		
事業実施総額	486,000 円		
事業実施日・期間	平成 29 年 11 月 15 日～平成 30 年 3 月 31 日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p><事業概要></p> <p>安曇野市の水と水辺に関わる昔の姿とその変遷を映し出す写真を収集してデータベース化し、貴重な地域資源として保存管理するとともに、今後のより良い安曇野の水の在り方、湧水と水辺を生かしたまちづくりに資する資料とする。</p> <p>その内容として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 写真収集：広報周知、収集先リストアップ、写真提供依頼、収集 2) 写真整理：収集写真の情報整理表（キーワード等）の作成、スキャンニング、写真撮影展示用写真の作成、聞き取り調査 3) 写真展および講演会の開催：収集写真の一部を用いた写真展、水辺の姿の今昔に関する講演会 4) 背景情報の収集整理：収集写真と関係のある時代背景の整理 5) データベース化：収集写真の情報整理結果を用いた検索システムの構築 6) 収納：電子データ、データベースの保管先への収納 7) 活用策の検討、データの更新：収集写真の利用方策、システム運用、管理ガイドラインの検討 <p><成果></p> <p>提供を受けた資料からスキャンした写真の中から企画に合った古写真を選別し、3月3日の発表会と3月21日の講演会の展示資料とする。</p> <p>具体的には、熊井秀雄氏（明科）から約 200 点、南安曇教育会から約 300 点、寺島堅氏から約 80 点、その他（堰土地改良区等）から約 300 点の提供を受け画像取り込みを行っている。</p> <p><今後の展望></p> <p>散逸や劣化の危機にある写真や資料を幅広く収集できること、作業の各段階で進捗確認と課題対応ができること、収集すべきと考えられる写真等を系統的に効率よく整理・保管できることが期待できる。</p> <p>展示会を機に、一般市民の方々に古写真に対する意識を改め、見直してもらい、自分の周辺的古写真に目を向けてもらいたい。</p>		



拾ヶ堰頭首工水門改修工事(大正年代)



眼鏡橋竣工式(大正 10 年)



木戸橋と犀川の舟下り(昭和初期)



高瀬川橋上堤防修繕工事記念写真
(明治 44 年)



電子情報化に用いた機器 (一部)

	協働事業実施団体	市
役割分担	1 写真等借用収集 2 収集写真等の背景情報収集と聞き取り調査 3 資料の電子データ化 (スキャン) データベース作成 (cd ロム作成) 4 展示資料の作成 5 講演会準備と運営	1 古写真所在調査 2 借用手続き 3 資料返却 4 写真展・講演会広報 5 その他 関連情報提供

安曇野市市民協働事業提案制度

事業名 あづみのフィルムアーカイブ事業

協働事業 実施団体名	あづみのフィルムアーカイブ	安曇野市	教育部 文化課
代表者名	三好 大輔	代表者名	課長 那須野 雅好
活動拠点所在地	安曇野市穂高 5227-15		
事業実施総額	3,780 千円		
事業実施日・期間	平成 29 年 11 月 22 日～平成 30 年 3 月 31 日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>(事業概要) 昭和時代に市民が記録した 8 ミリフィルムは、その土地固有の文化風習や、時代ごとの地域の暮らしを色濃く残す貴重な文化資産です。そこで本事業では、散逸や劣化の危機にある貴重な 8 ミリフィルムのデジタル化を進めるとともに、それら映像を活用して、世代を越えた多くの市民に参加・協力していただきながら地域映画の制作をしました。</p> <p>映画「よみがえる安曇野第 2 集」を観ていただくことで、若い世代の方々には、地域への理解が深まり郷土への愛着が芽生えることを、高齢者の方々には、自分たちの生きてきた足跡を懐かしく振り返り、精神的にも明るく健康になってもらえればと期待しています。</p> <p>◇具体的な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画「よみがえる安曇野第 1 集」上映会の開催（市内各所 出前講座） ・「ホームムービーの日 2017」の開催（11 月 26 日） ・8 ミリフィルムの収集 ・8 ミリフィルムのデジタル化（テレシネ作業） ・フィルム提供者への取材 ・市内音楽グループの皆さんの演奏収録 ・映画「よみがえる安曇野第 2 集」制作 ・映画「よみがえる安曇野第 2 集」上映会の開催（3 月 18 日） <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーカイブ事業は 3 年目を迎え、累計 402 本のフィルムを収集。その内今年度は 100 本をデジタル化。（合計 250 本のデジタル化終了） ・散逸（劣化含む）の危機ある貴重な映像資料を保存するとともに、豊科郷土博物館企画展示でも活用。 ・映画制作では、フィルム提供関係者はもちろん、BGM 収録でも市内音楽サークル、小中学校のクラブ等、多くの市民が制作に関わることができた。 <p>(今後の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座等を通じて、多くの市民の皆さんに観ていただく。 ・福祉・医療現場と連携を図りながら、「回想法」としての活用方法についても模索する。 ・デジタル化していない残りの 150 本のフィルムも順次デジタル化し、今後、郷土博物館、文書館等で活用できるようデータベース化を進める。 ・よみがえる安曇野第 3 集、第 4 集と継続して制作していく。 		

BGMの収録

上：三郷中学
合唱部



下：豊科女声
合唱団



ホームムービーの日 安曇野2017
安曇野の8ミリフィルム上映会



よみがえる！
懐かしの風景

あつみのフィルムアーカイブは、安曇野の懐かしいフィルムを
取り出し、増補上映して皆様に見せていくプロジェクトです。
市民が収録した8ミリフィルムには、昭和30年代から80年代を
中心とした懐かしな安曇野の風景が記録されています。
ホームムービーの日では市民が収録したフィルムを上映します。

平成
29年 **11月26日(日)**
穂高会館 会議室

午前の部 10:00～11:30 午後の部 13:00～14:30
※入場無料です。とちぎでも会場に無料配布します。

お問い合わせ：安曇野市教育委員会 0263-71-2464
主催：安曇野市教育委員会・あつみのフィルムアーカイブ 協賛：NPO法人映画館協会

ホームムービーの日
チラシ



8ミリフィルム提供者への取材（8ミリフィルム試写会の時の様子）

	協働事業実施団体	市
役割分担	1 HPの開設	1 広報掲載
	2 PRチラシ・ポスターの作成	2 ホームムービーの日開催協力
	3 試写会用映像作成	3 8ミリフィルム提供者連絡窓口
	4 8ミリフィルムのデジタル化	4 8ミリフィルム借用等事務
	5 8ミリフィルム提供者へ取材	5 8ミリフィルムの返却
	6 市内音楽サークル演奏収録	6 映像編集の協力
	7 映画「よみがえる安曇野」制作	7 完成上映会の開催
	8 完成上映会の開催	

【安曇野市 市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係】

住所：〒399-8281 安曇野市豊科6000番地 （2階4番窓口）

電話：0263-71-2494（直通）

FAX：0263-72-3176

E-mail：chiikizukuri@city.azumino.nagano.jp

【市民活動サポートセンター（くるりん広場）】

住所 〒399-8303 安曇野市穂高6658番地

電話/FAX 0263-82-1922

E-mail azumino-skc@bz03.plala.or.jp

URL <http://azumino-skc.net/>

開館 午前9時～午後5時

休館日 毎週日曜日

年末年始（12月29日～1月3日）